

第 12 回「地域アーツカウンシルのこれから」

講師：アーツカウンシル東京 事業推進室事業調整課

プログラムオフィサー 佐藤 李青氏

大阪アーツカウンシル 統括責任者

中西 美穂氏

1. 冒頭

アーツカウンシルの定義は、①行政から独立していること②専門家が担うこと③助成活動を行っていることである。東京、大阪、新潟におけるアーツカウンシルの設置形式や概要の説明を実施。

2. プログラムオフィサーの仕事について（佐藤氏）

- アーツカウンシル東京（以下、「AC 東京」という）は、公益財団法人東京都歴史文化財団内の一組織である。公益財団法人東京都歴史文化財団は、東京都立 12 の文化施設の運営を実施している。AC 東京には、シニアプログラムオフィサーが 11 名、プログラムオフィサーが 7 名所属している。シニアプログラムオフィサーは、主に助成金を担当している。
- AC 東京では、東京アートポイント計画（以下、「東京 AP 計画」という）という事業を実施している。本事業は、NPO と AC 東京と東京都が共催（対等な立場）で事業を実施しており、「大きな視点を持った小さな活動」を支援している。館を前提としない活動（アートプロジェクト）、評価（かたち）の定まらない（創造）活動、地域の担い手としての NPO を重視した事業。
- プログラムオフィサー（以下、「PO」という）とは、狭義の意味では、「助成金を配分する側の専門家」、広義の意味では、「事業の企画、準備、実施報告、評価、財源確保等の仕事をし、事業実施のコーディネータ、プロデューサー」である（牧田東一編著『プログラムオフィサー』学陽書房、2007 年）。
PO は、プロジェクト群を見ており、個々のプロジェクトを超えてより大きなテーマや展開を考えている。すなわち、個々の研究者や事業実施者とは異なる政策立案者の視点をもっている（前掲書）。また、PO の使命は、お金の配分そのものではなく、芸術文化の振興であり、業務のレンジは狭く固定的にとらえるべきではない（片山正夫「日本版アーツカウンシルと公的助成の諸問題」『芸術と環境』論創社、2012 年）。
- 東京 AP 計画における PO の仕事は、「伴走型」の中間支援をすることである。「近くとも外にいる」という立ち位置。PO は、NPO との関係は「近い」けれど（団体の）意思決

定の「外」にいる。また、東京 AP 計画を発信することも PO の仕事である。

- PO の仕事をまとめると以下の 3 点となる。
 - ① 何をやろうとしているのかを実現する：仲介者として間に立つ（対話役、発見者）
 - ② 芸術文化の「環境」変化に一石を投じる、一手を打つ：中間支援の担い手としての専門性をもつ
 - ③ 複数の手段（事業）を使う、必要な役割に「なる」（or 整える）：コーディネータとドラマトルクを行き来する？

- 3. 大阪アーツカウンシルの紹介（中西氏）
 - 大阪アーツカウンシル（以下、「大阪 AC」という）の立て付けは、大阪府文化振興条例及び大阪府市文化振興会議である。大阪府市文化振興会議共同設置規約に基づき、大阪 AC 部会が設置された。
 - 「大阪 AC の運営体制の強化に取り組み企画機能を向上させる」ことが大阪府の役割である。具体的には、評価・審査、調査そして企画を実施している。
 - 大阪 AC が設置されるまでの経緯を紹介。現在は、2 期目である。大阪 AC は、現在、大阪府の 16 事業及び大阪市 24 事業を評価している。また、大阪府内における文化施設等の視察（公開調査を含む）も実施。視察を行うことによって、課題を行政にフィードバックしている。

- 4. ディスカッション（佐藤氏、中西氏、吉田氏）
 - 東京 AP 計画の政策的な課題（PO で解決できないこと）はどうしているのか
 - 東京 AP 計画は、アーツカウンシル東京全体から見れば、あくまで一事業であり、都との政策の連動は、より大きな視点での関わりともなる。行政との距離は、いわゆる「アームスレンジス」のように距離をとるだけでなく、必要に応じて近づけることもあり、都度調整している。
 - PO は若手が多いが、NPO の方たちと円滑につきあっているのか
 - うまくいかないことも多い。PO 内で課題を共有し、互いの知見を持ち寄り、日々解決策を模索している。
 - PO の評価軸はどうしているのか
 - 東京都歴史文化財団の職員としての業務評価はある。ただし、PO の活動成果は見えにくい性質ももつので、その可視化は苦心してきたことであり、いまま議論を続けている。